

近畿病院図書室協議会第22回勉強会

研修部

日時：2006年9月30日（土）13：00～16：00
場所：洛和会音羽病院 ウイントップビル2階
会議室
講師：京都ノートルダム女子大学司書課程
非常勤講師「図書の修理と製本」担当
藤原 孝氏
参加者数：8名

今回の勉強会は実習のため、10名までの人数限定で行った。

実習の前に、基本的な知識として製本の方法と本の各部の名称について説明を受けた。図書館の整理作業の際にも本の構造についての知識は必要となるが、製本作業においても名称を知ることから始まる。続いて、本日使用する材料、クロステープや花切れ、糸と針などをそれぞれ確認した。

実際に仕上がった見本を何種類か用意していただいていたので、どんなものか確認しながらお話を聞くことができた。綴じ方ひとつにしても多彩で、3時間程度の実習ではとても身に付かないと思えた。そうは言っても、まずやってみないことには始まらないので、簡単な製本から実習を開始した。

まず基本的な製本のひとつである三つの穴を使って綴じる方法を実習した。用紙を折り、所定の場所に穴をあけ、糸を通す順番を確認しながら作業した。背表紙をつけ、見返し紙で表紙をつければ出来上がり。聞くだけでは簡単そうに思えるが、なかなか思うようにはいかない。使用したのは、木工用のボンドと洗濯用のの

りをブレンドして水で薄めたものである。

次に、各自が持ち寄った本の修復作業に入った。本の種類も違えば、破損の程度も違うので、それぞれに応じた修理方法を教わり、修復作業を行った。大胆に表紙を剥がさなければならぬもの、細かくページをのりづけしなければならないものなど、こんなにバラバラにしてしまっているのかしらと作業途中で心配になるぐらいの状態になったものもあるが、最後にはなんとか形になった。最後の過程で表紙が逆についたものや、途中でどうにも始末がつかなくなり、やり直すことになったものなど、失敗例も出たが、形としては今後の使用に耐えうるものになった。

補修だけではおもしろくないだろうとの講師のお考えで、実習の最後にサイン帳を作ることになった。紙を袋状につないで、屏風のように折りたたんだものである。山に折った用紙を重ね合わせてのり付けしていくという一見単純な作業だが、裏表を間違えそうになったり、違う用紙をのり付けしたり、意外と時間がかかった。それでも全員何とか時間内に作業を終え、きれいな表紙を付けたところで今回の勉強会は終了となった。

製本作業の基礎の基礎といった内容であったが、3時間があっという間に過ぎてしまった。今回の実習だけで実際に本の修復作業を行うには多少無理がある。しかし、今後も基礎だけでなく継続して製本技術を学び、日常業務に生かせたらと考えている。

（文責：林 伴子／社会保険神戸中央病院）